

式 辞

かつて本校の前身である松本中学がおかれていた松本城内の桜も今年は例年よりかなり早く満開となって、多くの人出でにぎわいをみせておりました。本校におきましても、昨年の今頃はまだ固いつぼみだった桜も、すでに今年は満開を過ぎ、まさに春爛漫の新年度のスタートとなりました。そんな生命の躍動に溢れたこの良き日、ご来賓の皆さま、保護者の皆様方のご臨席を賜り、令和五年度の入学式を挙行できますことは、この上ない喜びであり厚く御礼申し上げます。

さて、ただ今入学を許可いたしました三百二十五名の新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。教職員一同、心より歓迎いたします。こうして今拝見する皆さんの顔を見ると、ここ深志ヶ丘で学ぶ機会を自らの手にすることができた喜びをかみしめているように見受けられます。今日の喜びは、皆さんのこれまでの努力の結晶であることは勿論ですが、その影には皆さんを慈しみ育ててくれた御家族や先生、周囲の皆様方の愛情や苦労があったことを忘れてはなりません。それら数多くの善意や声援に深い感謝の気持ちをこれからも持ちつづけてください。皆さんの今後の学校生活が充実したかけがえのないものとなることを心より期待しております。

また、本日ご臨席いただきました保護者の皆様、お子様のご入学誠におめでとうございます。今日のこの日まで、我が子の成長のために骨身を惜しまず文字通り手塩にかけて養育されましたご労苦に、深甚なる敬意を表するものであります。時代の変化、社会の変化に伴い、学校教育は大きく変わってきております。しかし、一人ひとりの生徒の自己実現を図り、次世代を担う人間を育てるという教育本来の役割にはいささかの变化もありません。それは全ての大人の責任であり、そのために学校と家庭が協力し、同じ思いで子どもと接し、育てることが必要だと考えます。学校との連携を密にしながら、ご家庭でも子どもと触れ合う機会を大切に、我が子の成長を温かく見守っていただきたいと思っております。

松本深志高等学校は創立以来百四十七年目を迎えますが、その間「自治」の精神を校是とし、生徒は互いに切磋琢磨しながら勉学に励むとともに、豊かな人間性を育み、人格の向上と、進路実現を図ってきております。また、創立の精神を引き継ぐ一方で、地域や時代の要請に応え、常に新しい教育も導入し、現在は県教育委員会の「未来の学校」の指定を受け、その研究実践を進めております。新入生の皆さんも、そんな深志高校において、思う存分学び、自分自身を成長させていってほしいと願っています。そのためにわれわれ教職員一同、精一杯みなさんの学びを支え、応援してまいります。

さて、入学式に当たり、一つだけ皆さんにお伝えしたいことがあります。それは、皆さんにとって、この入学式は高校受検の結果としてのゴールではなく、皆さんが人生を歩むための学びを進めていくうえでの、新たなステージのスタートであるということです。このように言われると、不安を感じる方もいらっしゃるかもしれません。

そう感じた皆さんに、私は敢えて、初代校長小林有也先生の御三訓をお送りしたいと思いま

す。皆さんは、体験入学やオリエンテーションの折に、先輩の生徒会の皆さんからのレクチャーの中で、御三訓の存在をすでにお聞きになっているのではないかと思います。

一、諸子はあくまでも精神的に勉強せよ

一、而して大いに身体の強健を計れ

一、決して現代の悪風潮に染み墮落するが如き事のあるべからず

文語調の言い回しではありますが、私はこの御三訓を今の時代に当てはめて、次のようにとらえたいと考えます。

まず一つ目、精神的に勉強せよとは、学びの中で、深い知識と教養を身につけるとともに、設定した課題に対して周囲と協働しながら論理的に思考し、真理を求めて探究を進めてほしいという意味であると捉えられます。変化の激しい時代において、生きる力を身につけるために必要なこうした学びに、高いモチベーションを持って取り組んでほしい、そうした姿勢を説く言葉であると解釈しています。

二つ目、身体の強健を計れ、とは、たくましく、しなやかで柔軟な発想力、タフなチャレンジ精神をともなう心身、人間性を養ってほしいという意味であると解釈しました。ここでキーワードとなるのが「計れ」というシラブルだと私は考えます。「計れ」とは文字通り「計画して行いなさい」という意味なのですが、私はこの言葉について、まず自分の弱さを自分自身で認識し、心の準備を整えた上で、強健な心身を構築してほしいという意味であるととらえました。ところで、高校生ともなれば、自分のことは自分で律しなさいと言われる。特に深志では自由の中で、責任をもって自分の行動を決定する判断が各所で求められてきます。でも生活環境が大きく変わるこの時期に、なんでも自分で解決しなさいと言われても、心細くはありませんか。さらに、各地から集まった優秀で個性的な仲間と自分を比べると、自分の輝きが一気にしぼんでいくように受け止めて、居場所を見失い苦しく感じてしまうというようなこともあるかもしれません。そうしたときの対処方法としては、自分の弱さをまずは受けとめ、自分一人で抱え込むのではなく、ぜひご家族や、先生方を頼って相談してください。「自立と依存は両立する」、これは心理学者でもある、河合隼雄先生の言葉でもあります。そして時にはしっかりと頼られる存在になってほしい、そうすることで身体の強健を計ってほしいと願っています。

そして三つ目の世の悪風潮に染むことなかれ、とは、何も考えずに前例を踏襲したり、古くからの価値観にとらわれるということではなく、自分で考えることを通じて、移り変わりゆく世の中に対応していく必要性を意味しているのではないのでしょうか。この3年間の中学校生活はそれまでのものと大きく変化したことを皆さんは経験してきたと思います。さらにAIの深化はこれからの社会を大きく変化させることでしょう。しかしそうした変化に対応しつつ、新たな方向性を構築するとともに、多様な価値観を受け入れながら、新時代に向けて生きる準備を進めていただきたいと思います。私は考えています。

皆さんが、やりたいことに精一杯取り組み、そして自分の居場所を見つけながら、充実した楽しい高校生活のスタートを切ることのできることを、心より応援し願っておりますが、もし思うようなスタートが切れないなあと感じたときには、ぜひ、今日の私の話しを少しだけでも

思い出していただき、心身の調子を整えるのに役立てていただければありがたいと感じております。

最後になりますが、世界に目を向けると、今まさに戦火に苦しんでいる人々があり、学びたくても皆さんのように学ぶ環境が整わない子どもたちもいます。いま、この地で学べる幸せをかみしめるとともに、学んだことを、どのように世の中のために生かしていくか、みなさんがここでこれから学ぶ意味の一つであることを申し添えたいと思います。

以上、本日の入学式にあたり、所感の一端を申し述べるとともに、新入生の皆さんが本校で有意義な学校生活を送られることを心から祈念し、式辞といたします。

令和五年四月六日

長野県松本深志高等学校長

石川 裕之